



「忠臣蔵三百年」48番目の義士 菅野三平重實②

三平の家族

菅野三平は、父重利が48歳、母小まんが44歳のときの延宝3(1675)年に、菅野村で誕生しました。母小まんは、最初は重利の兄「重次」に嫁ぎ、男女一人ずつ出産しました。しかし、重次が若くして亡くなったため、弟の重利の妻になり、7人の子を出産しています。

文中の「菅野三平略系図」を参照していただくと分かりますが、三平は、父の三男、母にとつては四男になります。父重利は三男でしたが、長男が大嶋家の養子となり、次男重次が早くして亡くなったため、菅野家を継ぐことになりました。長男「大嶋三郎右衛門」は、美濃の旗本「大嶋茂兵衛」に跡継ぎがないため、養子となりました。後に実子が誕生したため、別家を興して大嶋家の家老になり

ましたが、跡継ぎがないため、重次と小まんの息子(母が同じで父が違う三平の兄)を養子に迎えています。

通説によると、貞享4(1687)年、12歳になった三平は、播州赤穂の城主、浅野内巧頭長矩に仕官しました。四男の三平は、父の跡を継ぐことができな

かつたため、父の主君、大嶋義近が三平を浅野家へ推挙したと伝えられています。大嶋家の家老が伯父であり、兄がその家の養子であるということから、三平にとつての大嶋家は、単に父重利の主君である以上の深いつながりがあります。

後に三平の切腹は、三平を推挙した大嶋家に迷惑がかかることを心配して反対した父への孝行と、主君の浅野家への忠義の

板挟みが原因として伝えられています。大嶋家の家老である伯父と、その養子になった兄の存在も影響したのではないでしようか。三平は切腹の半年前に、美濃に在住する兄、大嶋三郎右衛門を訪ねています。

菅野家を継いだ兄重通(三平より10歳年上)は、大嶋家の家臣として仕え、俳人「紅山」としても活躍しました。92歳という当時としては異例な長寿で、宝暦6(1756)年に亡くな

っています。また、もう一人の兄七之助は、幼くして亡くなつており、3人の姉と2人の妹の嫁ぎ先は、父が違う長女(名前は不明)は、豊中市庄内にある菅野家の菩提寺「妙圓寺」へ嫁ぎ、三女の「おとら」は、伊丹の作り酒屋で、俳人としても著名な北河原好昌に嫁ぎました。そのほかの姉妹が嫁いだ新稲の吉田家、吹田の吉田家、菅野の藤井家は、いづれも近隣では有名な庄屋の家でした。

菅野三平略系図

菅野恒重(大嶋家客分50石)

大嶋三郎右衛門(旗本大嶋家へ養子、後に家老)

重次(大嶋家客分50石)

重利(重次没後大嶋家代官80石)

菅野重次

長男 大嶋三郎右衛門(伯父三郎右衛門養子)

長女 名不明(菅野家菩提寺、妙圓寺へ嫁ぐ)

小まん(藤井家より)

次男 重通(大嶋家家臣)

三男 七之助(早世)

次女 こきん(新稲の吉田四郎兵衛室)

三女 おとら(伊丹の北河原好昌室)

四男 三平(赤穂藩家臣)

四女 おつや(吹田の山田村吉田家左衛門室)

五女 名不明(菅野の藤井嘉左衛門室)

菅野重利

現在、菅野の共同墓地にある三平の墓は、好昌とおとらの三男「長好」が、三平の死後39年後に建てたものです。